

2019年5月		
筆者	所属	千葉県農林総合研究センター 病理昆虫研究室 同センター 前・最重点プロジェクト研究室
	職名及び氏名	室長 福田 寛 上席研究員 大井田 寛
題名	ラッカセイ茎腐病の効果的な防除	

近年、生産現場では土壌伝染性のラッカセイ茎腐病（以下、茎腐病と表記）が多発し問題となっています。茎腐病は高温・乾燥条件下で感染しやすく、感染株は頂部から萎れ、地際部と根が褐変し枯死します。枯死した株の茎の表面には胞子が入った黒色小粒の柄子殻（へいしかく）ができ、新たな発病の原因となります。当センターでは、本病の防除対策として有効薬剤とその処理適期を調査しました。加えて、耕種的な管理による発病軽減効果を調査しました。その結果から明らかとなった本病の効果的な防除対策を紹介します。

茎腐病に対してはトップジン M 水和剤 1,500 倍液又はベンレート水和剤 2,000 倍液の散布が有効です。これらの薬剤を1次感染期（初発時）の6月中～下旬及び2次感染期の8月上～中旬に散布すると高い防除効果が得られます。

薬剤耐性菌の発生を防ぎながら発病を安定的に減らすためには、薬剤に依存せず、耕種的な管理を取り入れることも重要です。発病株を放置すると隣の株へ被害が拡大するため、発見した場合は速やかに除去し、畑から隔離してください。また、落花生栽培前に緑肥作物のカラシナ「辛神」又はアウエナ・ストリゴサ（エンバク野生種）「ハイオーツ」をすき込むと、効果は緩慢ながら茎腐病の発病が遅延、軽減されます。

以上のように①落花生栽培前の緑肥すき込み、②生育期の2回の処理適期における有効薬剤の散布、③発病株の速やかな除去、を組み合わせた下図のような管理を行うことで、本病を効果的に防除できます。なお、落花生栽培では播種直後の鳥害等も収量に大きく影響するため、播種時にはキヒゲン R-2 フロアブルを種子に塗沫処理してください。

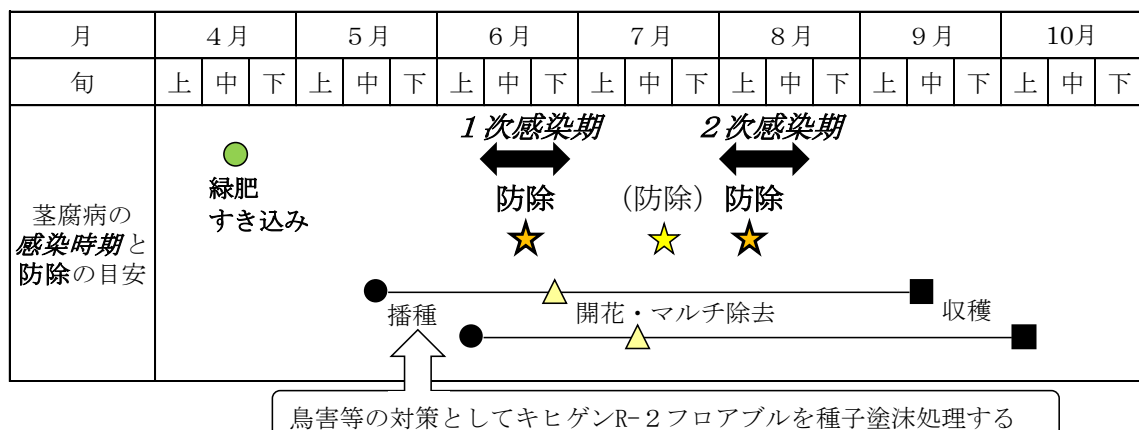


図 茎腐病等の病害及び鳥害に効果的な防除体系

- 注1) 生育期の防除にはトップジン M 水和剤またはベンレート水和剤を使用する
- 2) 1次感染期の時点で発病が多い場合には、7月中にも防除を行う
- 3) 被害拡大防止のため、発病株を発見次第除去する